

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071601902		
法人名	株式会社 惠優		
事業所名	グループホーム 陽だまり	(ユニット名	1ユニット)
所在地	福岡県久留米市御井町2491番地1		
自己評価作成日	平成22年3月17日	評価確定日	平成22年5月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成22年4月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員に看護師(整形外科、内科、精神科出身等)が多く、利用者やご家族にとって安心感がある。また、作業療法士も在籍しており日常動作訓練や骨折後の歩行訓練、頭の体操なども行うことができる。周囲の環境は、高良山をバックに閑静で緑多い住宅地に位置している。
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療現場で看護師として長年要職に就いていた管理者は、退職後携わったデイサービスでの高齢者との関わりの中から、認知症介護のあり方について考えるようになり、グループホームの開設へと思いが至って、知己の方々からの支援・後押しを受け開設することとなる。管理者の過去の職歴・経歴からの人脈が厚く、古くからグループホーム予定地域に居住していたこともあり、地元の方々の賛同と協力も得られての開設である。ホームには医療、福祉に携わる専門資格を所持する職員が充実しており、特に看護職員が多いことから利用者・家族にとって安心して生活できる環境が確保されている。20歳代～70歳代の職員がそれぞれ対等で自由に意見を言い合える関係から、アットホームな雰囲気が伝わってくるホームである。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は理念を共有し、それをふまえて利用者と接している。	開設時作り上げた事業所理念は地域密着型サービスへと変わった際に、新たに地域密着型サービスの意義に照らした理念を充実させ、管理者、職員共に日常生活の中で互いに理念を確認、振り返り実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事である敬老会、クリスマス会、親月会等に参加し、相互交流を深めている。子供会との交流やボランティアの受け入れ等も行い利用者とのふれあいを大切にしている。	地域の行事には必ず協力するようにしている。月毎の行事には利用者と共に参加し積極的に交流を深めることに努めている。幼稚園児の訪問、小学校からの行事への招待などの触れ合いも継続的に行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティア訪問や地域密着型運営推進会議、火災訓練などに地域の方が参加していただくことで、利用者や触れ合いお互いの顔や氏名を覚えて下さったり認知症の人への理解を深めてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を実施し、自治会長、老人クラブ会長、子供会部長、民生委員、利用者家族、市役所職員、包括支援センター職員の参加があり、施設の現状報告や意見交換を行いサービス向上に取り組んでいる。	2ヶ月に1回、ホームの現状報告や意見交換を行い、サービスの向上に取り組んでいるが、運営推進会議のメンバーに利用者の参加が見られていない。	認知症であっても、思いや意向を伝えることは可能なので、運営推進会議への利用者の参加が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険制度の書類や疑問点などは市の調査を受けて改善し、質問・相談事なども市役所長寿介護課に随時行っている。必要に応じて連携がとれるようにしている。	市役所の長寿介護課にはオムツの請求手続きや備え付けパンフレットの補充などで出向している。また、市の職員の訪問があった際に、身体拘束に関するアドバイスなどをもらうこともあり、サービスの向上に向けて共に連携を取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけずに開放しているが、利用者の安全確保の為に玄関にセンサーを設置して外出したら直ちに分かるようにしている。	管理者はじめ全職員が身体拘束の弊害を理解しており、ベッド柵、ミトン使用(夜間のみ各1名ずつ)については、家族から同意書をもってのものであるが、はずす方向で改善に努めている。玄関は夜間を除きセンサー対応で常に開錠されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について学ぶ機会をもち、入浴時などには身体の観察に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の制度について職員にパンフレットを配布し、職員に理解をしてもらうよう説明を行った。	権利擁護に関するパンフレットを利用し、必要と思われる利用者家族には説明し社会福祉協議会、地域包括支援センター、民生委員など関係者と共に話し合いを行っている。現在1名の利用者家族が活用を検討中で話し合いをすすめている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、契約時あるいは解約時等は十分な説明を行い納得してもらっている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関ホールに意見箱を設置している。家族の訪問時や運営推進会議に要望や意見を伺い、また相談事にも対応している。	意見箱の設置はされているが、今までに利用はされた事例はない。運営推進会議は家族代表者のみの参加であるが感謝の言葉をもらうことが多く、特に意見が述べられたことは無い。職員は何時でも意見を言っていただけの雰囲気作りに努めている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1か月に1回会議を設けて全職員の意見を聞き反映させている。	1ヶ月に1回の職員会議のほか、管理者は昼食後の時間を利用し、日常の気付きなど意見を言い易い雰囲気を作り、職員からの意見を聞き入れて運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	公休も職員の希望を100%受け入れ、いつも笑顔を絶やささないよう明るい職場づくりに努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員募集の段階で定年制度を設けているが、職員の希望により継続勤務が出来るように対応している。	年齢や性別による採用時の制限、排除はない。職員一人ひとりの思いや社会参加、自己実現への配慮がなされ、それぞれが能力を発揮し、利用者中心の和やかでアットホームな会話がなされており、20～70歳代の職員が生き生きと働いている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	施設長や管理者が研修や勉強会に参加し、人権教育に取り組んでいる。	月に1度の職員会議の場では、入居者に対する言葉遣いに対して特に厳しく指導している。また、「慌てず、さりげなく、羞恥心に配慮し、いつも優しい笑顔で」の対応を徹底している。今後認知症サポーターの研修にも参加させて学習するようしており、啓発への取り組みにも努めていく予定である。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職後、3か月程研修期間を設け理念に沿って統一したサービスが出来るように取り組んでいる。職員も積極的に研修会に参加して意識の向上ができるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各勉強会や施設長会議等に参加し、同業者の話を聞くなど相互交流を通じてお互いのサービスの質の向上に努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	受け持ちを決めて利用者の困っていること不安なこと、悩み、要望等に耳を傾けながら関係を築き、早く安心して生活できるよう努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が困っていたり不安であったりする事はよく聞いて対応し、信頼関係づくりに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者と家族が何を必要とされているか、また何が必要かを見極め、入居後の要望に対応したり提案したりしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に過ごし喜怒哀楽を共にして利用者の安心と心の安定を図るとともに理解と関係を深めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の現状や問題点などを御家族からもすんなりと言っていただけるような関係づくりを行い、共に本人を支援していくよう努めている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の友人や以前に通院先で知り合った地域の方などの訪問を歓迎し、居室でゆっくりと交流の時間を過ごせるよう支援している。	ホーム入居後も、それまでのかかりつけ医での受診継続を支援している。通院時には家族と行きつけのところで食事を楽しみにしている利用者もいる。同級生と食事をする機会や友人の訪問も多く、馴染みの関係が継続している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の居室内だけでの生活ではなく、多目的ルームで過ごされる時には利用者同士の悩みをお互いに聞いたり、家族や楽しい昔の話などをされたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じてフォローしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	買い物が好きなのは買い物に、食べることが好きな人は希望の食物等を料理やおやつに取り入れている。	生活歴や家族からの情報を収集し個別に希望や、意向の把握に努めている。外出を兼ねて毎月デパートに買い物へ出かけたり、嗜好品や食事の時間帯・回数なども本人本位に細かく対応をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人あるいは周囲からの情報収集により利用者の今まで生きてきた環境、生活歴やサービス利用の経過等を知り、更に日々の生活の中でもこれまでの馴染みの暮らしを捉えていく。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の現在の心身状態や身体的にできる力、理解できる力を生活の中で常に把握するよう努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	認知症が進み本人がほとんど話し合いに参加していないというのが現状である。理解力のある方は参加する。	東京センター方式の導入を開始し、利用者、家族から、きめ細かくアセスメントし介護計画を作成し定期的に見直しを実施している。また日々の生活の中で気付いたところは、その都度話し合いがもたれている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきなどを記録に残し職員間で情報を共有して実践している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者のニーズに応じて支援のほうほうを考えている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の自治会、ボランティア、民生委員との交流や消防団、警察などの協力も得て安全で豊かな暮らしができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の同意によりかかりつけ医を受診したり、連携医に2週間に1回の往診をしてもらい、歯科、眼科についても本人、家族の同意により必要時に往診してもらっている。	利用者、家族の希望するかかりつけ医へ受診している。協力医療機関の医師との連携が取れていてスムーズな受診体制が整っている。また、ホームとの連携にて早期退院の実現ができています。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中で、身体の異常や状態変化に気づいて看護職に報告している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院時のカンファランスに参加したり、入院時には情報提供を行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期支援の対応について本人や家族の意向や連携医の意見などを確認して対応方針を決めている。	入居時に重度化や終末期について説明をしている。利用者の状態に合わせ、家族、医師、職員間で話し合いが重ねられ対応方針を決めている。ホームでの看取りも行われていて、職員の心構えも確立されている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に慌てずに適切な処置・連絡が出来るように日頃から教育を行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1年に2回避難誘導訓練を行い、地域の方々にも参加してもらっている。	年2回消防団員や地域住民の参加で避難誘導訓練が行われている。台風や停電の時の対応や夜間の訓練等、消防団との話し合いのもと計画されている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々人の人格を尊重し、言葉遣いに気を付けている。	一人ひとりの人格を尊重するために、言葉かけを重視しており、一人ひとりの気持ちを大切に、また、指示や上から目線にならないように職員間で注意をしている。排泄介助時などの異性の介護者についても本人に可否を確認をしている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを聞いたり、希望がある人はできるだけ希望に沿うよう対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の希望にできるだけ沿えるよう努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	口紅や化粧をされた時は褒めたり服装が変わっていたらよく似合っているねなど声をかける等、身だしなみやおしゃれへの関心を継続するよう支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に食べたい物を尋ねたり、可能な人はスタッフと一緒に食事の準備や後片付けをしている。	利用者の嗜好を受け入れ献立に反映させ、食事中は急がせることなく個々のペースを大切に摂食している。食材の皮むきや配膳、食器洗いなど利用者の能力に合わせ自然な動きで行われている。	食堂兼リビングで車椅子のまま食事や活動が行われている。車椅子は移動するための用具であり、長時間の利用は避けて、適宜椅子やソファに腰掛けての生活が望まれる。
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養、水分量が分かるように記録して、水分が足りない場合は途中で補給してもらったりしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	うがいや歯磨きを行い、口腔内の清潔に努めている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握を心掛け、時間毎に声掛けや誘導をしたりしてオムツ使用を減らすよう心掛けている。	排泄に介助が必要な人に対し、排泄パターンによりトイレ誘導を行い、トイレでの排泄に心掛け、排泄の自立にむけて促しをするとともに排泄の回数、量の把握をしている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を摂ってもらったり食物繊維の多い食物を心がけたり、薬を飲んでもらったりしている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望に沿えていない人もいると思うが、できるだけ沿えるようにしている。	週2～3回の入浴としているが、毎朝の陰部洗浄やおむつ使用者には常時シャワー浴で清潔保持を行っている。一番風呂の希望者にも応じている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態や習慣に応じて居室で安心して眠れるよう支援したり、ソファで休息してもらったりしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	使用している薬の目的や副作用などをファイルにまとめて職員がいつでも見られるようにしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	炊事ができる人には野菜の皮むきやささがきを一緒に作ってもらったり、編み物が趣味の人は自分のしたい時間に編み物をさせているなど。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族が何処かに連れて行きたいというような時にはその送り迎えや介助を家族と一緒にいたり、天気の良い日には散歩や花見を行っている。	地域との交流の中で公民館である行事には参加をしている。天気の良い日は希望を聞き屋外に出るよう支援をしている。過去に利用者の希望に応じて納骨堂に御参りができるように支援をしたこともある。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどお金の管理ができる人がいないため職員で管理しているが、個人の希望や管理能力に応じた金額のお金を所持されている人もいる。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で家族に電話されたり、職員に頼まれれば家族へ電話を取り次いだり、手紙を書かれた時に預かって投函するなどの支援をしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井が高く開放感のある共有のスペースや畳の間には雛人形や花など季節感が味わえるようなものを飾り、窓からは外部の木々の花や高良山の自然を眺めることができる。	程よい光や色合に落ち着きを感じられる幅の広い廊下は開放感があり、リビング、トイレ、浴室へと移動しやすくなっている。廊下壁面には季節感のある飾りが施してある。広いリビングでは調理の様子が伺われ五感を刺激している。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	多目的ホールには畳の間や複数のソファも配置されており、思い思いの場所で過ごせるようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具を持ってきてもらったり、本人や家族と相談しながら配置を考えたりしてできるだけ居心地良く過ごせるように心がけている。	自宅で使い慣れた家具やソファ等が持ち込まれており、一人ひとりの生活に合わせ配置されている。趣味を生かした自慢の作品も飾られ、生活用品が使いやすいように整理されていて居心地の良い居室となっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	不安や混乱がないようにトイレの文字を大きく表示したり、夜間でもすぐに分かるよう明るくしているなど。		